

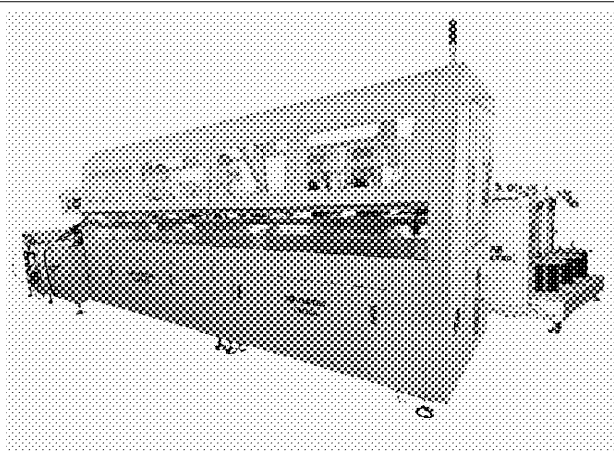
最大10種類バラ端子対応

日本オートマチック 全自動圧着機投入

日本オートマチックマシン（東京都大田区、水野雅文社長）は、制御盤など盤業界の省人化ニーズに対応し、盤内に使う電線と端子を結合する全自動端子圧着機「CN308」を19日に発売する。1台の圧着機で連続端子に加え、最大10種類のバラ端子に対応できる。最小構成価格は6000万円（消費税抜き）から。制御盤や配電盤メーカー、盤を内製する工作機械メーカーに提案、3年で10台の販売を目指す。

切断など一括処理

人手不足を受け盤業界でも自動化ニーズが高まり、需要が見込めると判断した。自動車業界のワイヤハーネス（組み電線）向けで蓄



全自動端子圧着機「CN308」はモジュール化した各工程を組み合わせて一括処理できる

印字と電線挿入、端子圧着などモジュール化した工程を組み合わせた一括処理できる。顧客

断面が0・3平方ミリの5・5平方ミリの最大36種類の電線を加工できる。

圧着機に最大10種類のダイスを装着できる「ターレット式ダイスホルダー」を搭載し、最大10種類のバラ端子（裸端子、絶縁被覆付端子、フェルール端子）を加工できる。端子圧着部（バレル）はオープン、クローズドの両方に対応した。

併せて電線切断機とマークチューブプリンターの一体化により、仕掛品がなくなるチューブ挿入機「TSW01」も19日に発売する。電線へのマークチューブ挿入を自動化し、手作業で生じていた誤挿入も防げる。価格は約700万円（消費税抜き）から。盤業界向けに年10台の販売を目指す。